



住民の声を市政へ

市民による市政の模索

市政こん談会

聴く市政 話す市政 そして、それに応え

る市政の第一歩ともいえる市政こん

談会がスタートした。

地域住民の意見や要望など、生の声を聞き

それを行政の中にとり入れ、生き生きとした

市政をすすめていこうというもので、今後の

運営が注目されている。



市長を囲んで前浜地区での市政こん談会

ビオン子・第一回目の市政こん談会が行われたそうです。ジャンボ・うん、浜田一雄公民館長さんにお世話してもらって、前浜地区住民のいろいろ要求、要望など、生の声を聞くために開かれた。

黒べえ・これからも各地区でやるの。ジャンボ・順次、各地区を廻ることになっているね。ただ、市長さんも就任して日が浅いので、なかなか日程がとれず、秘書係でも苦労している。

ビオン子・間もなく農業者にとっては、猫の手も借りたい農繁期に入るのでね。

ジャンボ・日程や場所が決れば広報もされますので、できるだけ多くの人が参加してもらいたいものだね。

黒べえ・市政こん談会というの

このほか、行政相談五三市モニター制度二七五市など、市民の声を聞くための方法が、いろいろ行われているね。ビオン子・行政と一語になって自分たちの町は、自分たちみんなで作る、という気運が高まってくれば最高です。ジャンボ・行政の側にしても、ただ、市民の声を聞くだけでなくそれが行政の中に生かされ、地域のみずみずまで、生きた施策となつて浸透していくようにならないければいけませんね。

黒べえ・いろんな問題点はでてくるだろうけど、それを一つ一つ大切にしながら、改善していったらいいな。

ジャンボ・そうだね。暗中模索といったところだろうけど、よりよい南園市づくり頑張らね。

黒べえ・市役で留守の間に二尺五寸の刀を園に供出したのが残念、だが四、五振りは残っています」とい

う。黒べえ・剣豪は相当の腕前、兄弟もみんな剣豪ぶりを発揮している

そうです。

第一回目の市政こん談会は、六月十八日午後六時半から前浜地区公民館に約五十人が集って行われ

た。

まず、浜田一雄公民館長の司会で杉本市長が市政報告のあと住民との対話

通学道の危険箇所、市道の舗装

は、市でも二、三年前からやられているけれど、どんな目的なの。ジャンボ・一言にいうと住民の生の声を行政に反映していかうということかな。

ことしの施政方針でも市長さんは「聴く市政・話す市政・そしてそれに応える市政」を基本的な政治姿勢にしているのね。

ビオン子・市民の声を聞く、公聴活動が全国的に盛んになってい

るよっだね。

黒べえ・この間、自治省が全国の都市六四三市を対象に「都市における広報・公聴の実態調査」をまとめたんだそうだね。

ジャンボ・いまままで、ややもすると自治体制の上意下達的な性格をもったり、そうなりやすかったんだね。

この調査の結果に基づいて自治省では「住民が、何を求めている

は、市道の側溝、排水と下水道の新設など、県、市の行政範囲を越えた住民の生の声。

高知空港の拡張、財政問題など当面する行政課題がとりあげられたあと、香南中の改築、大湊小学校への入学前の子供は、大湊小に一教室幼稚園を併設してはどうか。教育者である市長に研究してほしい。」連絡員は緑の下力もちだ

せめて年一回は慰労会を」といった建設的な提案が出された。

最後に市長が「明るい話がなく残念だが、なるべく地元に入って行き、末端へ浸透した行政をしたい。」と、市の姿勢をあらためて述べて閉会した。

はじめての会できこちなさはあったが、まずまずのスタート。金

一般的に地域に密着した要求・要望が多く、その場で解決していくというより、現場をみて住民と話し合いながら解決の方向を見つけていくべき問題が多かったといえよう。

こりずに「市民による市政」の模索に取り組んでほしいものだ。



町内 豊定 岡

北辰一刀流の剣豪

か。を見極め、多様化する住民意識や意見を吸い上げて、行政に反映させる公聴体制の不十分さを指摘しているね。ビオン子・なんだか、むつかしくなってきたけど。住民の生の声を聞いて、市政の方針をたてたり、予算を組んだりしていくことなの。ジャンボ・そんなことだね。そこで「住民生活優先の行政、住民サイドに立った行政を進めるために、広報・公聴部門の強化」などを自治体に要望している。

黒べえ・そして、そのうえ「政

策立案レベルでの住民参加」を求めるよう行政指導をする方針をだしたね。ビオン子・どんなにすれば、住民の意見や要望を行政の中に生かせるか。そのために、どのような組織や機構をもち、活動をすればよいか、ということなのね。ジャンボ・うん、大変むつかしいけど。市役所でもいま、係長十人でプロジェクト・チームをつくって、広報・公聴のあり方について研究もしている。

ビオン子・民主主義とは「市民

北辰一刀流免許皆伝、杉本定内(じょうない)

弘化三年、北辰一刀流、千葉開作に剣を学び、星眼伝授を受けた

剣豪だが、あまり知られていないようです。

定内の四代目になる杉本泉氏(いづみ)

岡豊町中島宅に、水晶の軸に巻かれた錦の巻物があります。

定内は、長曾我部元親の家臣。大阪で東西大相撲のあったとき、殿様の子供が機軸から駆け落ちる

を失った。あわてふためく人々をかきわけ、一喝を入れ、息を吹きかえらしたところから、殿様に認められ、千葉道場で修業。免許皆伝の腕前になったとか。

土佐に帰っては、岡豊町八幡に

の、市民による、市民のための市政、でしょ。

「市民のための市政」ということは、よくいわれたけど、わか

るような気がするけど。「市民による市政」つまり、市民参加の市政をすすめるのは、大変なことのようね。

ジャンボ・全国の都市でも、市民の人たちに、どんなに市政に参加してもらおうか、いろいろ苦労しているようだね。

市政こん談会は、全国の都市の四〇〇、二六二市で行われている

町道場をもち、多くの門人をおくり出した、ところが、明治四年、

鹿藩置界のおふれが出たあとは岡豊山で薬草をとっては遠く幡多地方まで行商して生活をたてたそう

な。

剣をとっては天下無敵。いつもは刀を持たず、木剣だけだったとい

う。刀、よろい、ヤリなど、名残りの品々も大切に保存されています。

「兵役で留守の間に二尺五寸の刀を園に供出したのが残念、だが

四、五振りは残っています」とい

う。黒べえ・剣豪は相当の腕前、兄弟

もみんな剣豪ぶりを発揮している

そうです。

第一回目の市政こん談会は、六

月十八日午後六時半から前浜地区

公民館に約五十人が集って行われ

た。

まず、浜田一雄公民館長の司会で

杉本市長が市政報告のあと住民